

令和4年度学校評価における自己評価

真岡高校定時制

○ 本年度の重点目標及びその達成に向けた具体的な取組

＜本年度の重点目標＞

学校生活の様々な場面を通して、以下の8つの力を育成する。

- ①【傾聴力】 他者の意見を謙虚に聴く力を身につける。
- ②【分析力】 物事を客観的に分析する力を身につける。
- ③【思考力】 物事に対して、「何故か」を考える力を身につける。
- ④【発信力】 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える力を身につける。
- ⑤【想像力】 未来（結果）を考え、想像する力を身につける。
- ⑥【創造力】 課題を解決する方法を創造する力を身につける。
- ⑦【行動力】 自身の考えに基づき、他者と協力して行動する力を身につける。
- ⑧【自己肯定力】 達成感を積み重ねることで、自信をつける。

◇学校生活における様々な教育機会で「至誠」を意識させ、取り組ませることで、基本精神に則り行動できる人材の育成を目指す。

◇学習成果を活用する場面を社会と捉え、生徒の意識を広く実社会に向けさせ、将来を見据えて学習に取り組む人材の育成を目指す。

＜評価項目(重点目標の達成に向けた具体的な取組)＞

- ア 生徒の健全な成長を促す生徒指導・教育相談の充実
- イ 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善
- ウ 生徒の主体的な進路選択を促す進路指導・キャリア教育の充実
- エ 生徒の自己有用感や自己肯定感を高める特別活動等の充実・活性化
- オ 学校と家庭・保護者等との連携・協力の強化

○ 自己評価

＜評価項目(具体的な取組)について＞

以下、数値(%)は学校評価アンケートの結果で、生は生徒、保は保護者

ア「生徒の健全な成長を促す生徒指導・教育相談の充実」について

月例の教育相談情報交換会を通して、生徒についての情報の把握と全職員での共有に努めた。また、年5回の個人面談や、日々の言葉かけ、教育相談等を通して、生徒理解、生徒の心のケアに努めるとともに、いじめの未然防止を図ったり、生徒が自己理解を深めて日常生活を改善したり、将来の目標を明確化したりできるよう指導、支援を行った。学校評価アンケートでは、「いじめ問題について未然防止や早期解決に努めている(生89%)」、「面談などをとおして生徒一人ひとりの理解に努めている。(生87%)」など肯定的評価がみられた。生徒は比較的落ち着いた学校生活を送っており、問題行動等で指導する場面は少ない状況であるが、出席率の改善や社会に出てから必要となるマナーを身に付けさせるなど、今後とも生徒の健全な成長を促す指導・支援に努めたい。

イ「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善」について

新しい学習指導要領の考えかたに基づき、3 観点を念頭に置いた授業実践と評価を中心に、基礎学力の定着、教材の工夫、グループワークや発表、作文、論述など自分の考えをまとめて表現する機会の導入、目標の設定や振り返りによる学習のフィードバック。タブレット等のICTの活用などに努めた。学習指導については、「基礎学力向上のための取組を十分に行っている(生79%)」、「分かりやすい授業を行っている(生85%)」など、おおむね肯定的評価がみられたが、昨年度に比べ、いずれも 10 パーセント以上の低下となっており、さらなる改善の必要性を感じる。生徒の興味関心を喚起しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善をさらに推進したい。

ウ「生徒の主体的な進路選択を促す進路指導・キャリア教育の充実」について

外部講師による進路ガイダンスの複数回開催や会社訪問・学校見学の早期実施、ハローワークとの綿密な連携などを通して、生徒一人ひとりの目標の明確化と生徒の特性に合った進路選択を推進した。また、志望理由書や小論文、面接等の個別指導についても、計画的に行うことができた。進路指導については「就職や進学に関する指導を適切に行っている(生83%、保65%)」、「個別指導をよく行っている(生87%、保65%)」など、生徒から肯定的評価をやや多く得られたが、今年度は、全体に占める低学年の保護者の割合が高かったこともあり、肯定的意見が昨年度に比べ大幅に低下しており、学校の取り組みについて保護者の理解を得る場を設定する必要性を感じている。

エ「生徒の自己有用感や自己肯定感を高める特別活動等の充実・活性化」について

学校行事については、コロナ禍の中ではあったが、ICT活用による実施方法の工夫等により、ほぼ実施することができた。「学校行事が充実している(生 74 %)」とおおむね肯定的評価を得られた。各行事や生徒会・委員会活動では、運営等の役割を分担して、できるだけ多くの生徒が活躍する場面を設けたほか、仲間とともに計画を立てたり活動を振り返ったりする機会も設けられた。一方、部活動については、「生徒会活動や部活動が活発である」の項目については、肯定的意見が(53 %) 否定的評価(47 %)とほぼ半数ずつであった。しかし、今年度は栃木県総合体育大会が開催され、そこで上位入賞した陸上競技部の4名、柔道同好会の1名が全国大会に出場し、柔道同好会では、個人、栃木県チームとして臨んだ団体の両方でベスト8に入ることができた。

オ「学校と家庭・保護者との連携・協力の強化」について

P T A総会や夏季休業中の保護者面談などを通して、生徒への指導・支援について保護者との共通理解を図るとともに、学校だよりなどを通して、情報発信に努めた。この結果、「面談などをとおして生徒一人ひとりの理解に努めている(保81%)」、「配布物などで学校の情報を積極的に発信している(保 77 %)」とおおむね肯定的評価を得られた。一方、回答率が 62.0 %と昨年度を大きく下回ってしまったことから、さらに保護者との連携・協力を深めるとともに、情報発信の工夫に努めたい。

<本年度の重点目標について>

本年度は、上記5つの具体的な取組を中心に様々な教育活動を通して、8つの力の育成および重点目標の達成に向けて取り組んできたところであり、生徒による差はあるものの、一人一人の生徒に様々な成長が見られた。本校定時制に対する評価も「入学して良かった(生87%)」、「入学させて良かった(保90%)」とおおむね肯定的評価を得られた。「生徒が自立できるよう人間的成長を促す取り組みに力を注いでいる(生85%、保71%)」の項目への肯定的評価がさらに多くなるよう、今後とも、指導に努めていきたい。